



# クルアーングッズ

## 小杉 麻李亜

(こすぎ まりあ)

立命館大学先端総合学術研究科

### 世界各地で愛好

あるとき、インドネシアのジャカルタで現地の女性と食事をしていると、彼女の携帯が鳴った。「着うた」はまだなく、「着メロ」がおもだったにもかかわらず、男性の声が朗々と流れてきたことにまず驚いた。しかもアラビア語で、よくよく耳を澄ませるとそれはイスラームの聖典であるクルアーン（コーラン）の読誦であつた。

四、五年前にエジプトのカイロで携帯電話話が普及し始めたころ、待ち受け画面にクルアーンの章句をあしらった画像が表示されているのを見て驚いた。ところが今度はインドネシアであつたという間に「着うた」で読誦が回る時代になつていた。

クルアーンは聖典なので、イスラーム世界に行けばむかしからどこにでもある。書物だけではなく、読誦されることによつても広がっている。モスクの装飾に使われ、説教や会話のなかで繰り返しその章句が引用されるのももちろんのこと、最近ではさまざまなグッズとしても広く愛好されている。消費社会が進んだ都市ではステッカーやカード、ポスター、キーホルダーなどがよく見られるし、伝統工芸を生かした壁飾りや置物、電灯などの室内装飾品、装身具、お守りなども一般的である。観光などでイスラーム圏を訪れたときに、タクシードライバーにぶら下げられたお守りを見た覚えがないだろうか。

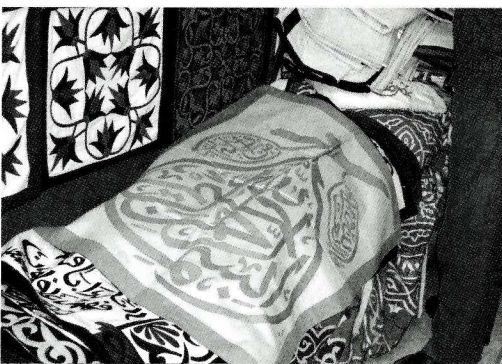
### 普遍性と地域性

これらのグッズは宗教心の発露であることもあれば、文化的なアイデンティティをあらわしていることもある。種類は豊富で、さまざまに趣向が凝らされている。例えば、ヘナでコーティングした木片の腕輪は、東南アジアのある島の特産品であり、これにクルアーンの章句をあしらったものは、ある村で少量だけ作られている。あるいは小さな天然石の薄板に針の先ほどの太さで章句が刻まれたものは、エジプトの隠れた名品である。その一方で、エジプトの名物パピルス製のクルアーン・ポスターとなると、土産品として広く出回っているし、パレスチナのヘブロンが産地である陶器の皿もイスラーム世界中に輸出されている。章句がデザ

インされた貴金属のペンダントトップはもつともポピュラーなものひとつで、各地で生産されている。

ところで、これらのグッズはこの地域で見付けても、章句がアラビア語で書かれているので、すぐにそれとわかる。というのも、クルアーンはアラビア語で誦んで書くというルールになつており、たとえアラブ圏を離れ東南アジアに行つても、常にアラビア語のままなのである。中国土産の数珠状の腕輪は、赤、黒、白の珠が連なつていかにも中華風なのがものめずらしく愛らしいが、刻まれたことばはやはりアラビア文字であつた。ムスリム（イスラーム教徒）たちに共有されている普遍的な聖典クルアーンは、多種多様なグッズとして、イスラーム世界の各地の日常生活のなかに顔を見せている。

ステッカー。「議論をするときはもつともよいことばを用いなさい」



テント用布地の壁掛け(カイロ)



平積みされたクルアーン(ジャカルタ)